

秋の踊 (道輪口説) テ85

本調子

工	五	七	八	四	七	〇	五	工	尺	工	四	合	〇	四	乙	四	上
													そ	ら	も	な	が
																	つ

四	乙	四	〇	四	乙	四	上	四	合	工	五	七	五	工	尺
き		は	じ	め	ご	ろ	か	や		よ	も	の	も	み	じ

工	合	工	五	七	八	四	七	〇	五	工	尺	工	四	合	〇	四	乙
	を													そ	め	る	し

四	上	四	乙	四	上	尺	上	四	上	尺	工	〇	尺	工	七
ぐ	れ	に		ぬ	れ	て	お	じ	か	の				な	

〇	五	〇	工	尺	工	五	工	尺	上	老	四	合	工	五	七
く		も			さ	び	し		き				お	り	に

五	工	尺	工	合	工	五	七	八	四	七	〇	五	工	尺	工	四	合
つ	げ	く	る														

一、空も長月初め頃かや四方の紅葉を
二、染める時雨に濡れて牡鹿のなくも寂しき折りに告げ来る

三、雁の初音に心うかれて共にうちつれ
四、出づる野原の桔梗苜蓿の錦を

五、きても見よとや招く尾花が袖の夕風
六、吹くも身に沁み夕日入江の海士のこどもや

竿のしづくに袖をぬらして波路はるかに
沖に漕ぎ出で月は東の山の木の間に今ぞほのめく